月刊「建築技術」2017年　年間企画案

株式会社建築技術　編集部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町 3-10-4　千代田ビル 4 階
TEL 03-3222-5951　FAX 03-3222-5957

1 月号　断熱と省エネの「わからないこと」と「知りたいこと」

［監修：南雄三（住宅技術評論家，南雄三事務所）］

原稿締切日：2016 年 11 月下旬　雑誌発売日：2016 年 12 月 17 日

日本の住宅業界はいま大きな変革期にある。人口減少や住宅の余剰，特に 2020 年の建築物の省エネ基準適合義務化に向けた省エネ推進の動きが加速している。改めて「これからの住環境」と「それを提供するために必要なこと」が問われている。この特集では，提供する住宅に主な必要事項を取り上げる。取り上げる必要事項は，施策，省エネ基準，断熱・気密と開口部，暖冷房・換気，結露。

2 月号　CLT 関連告示と建築設計への活用法

［監修：安村 基（静岡大学学術院農学領域教授）］

原稿締切日：2016 年 12 月中旬　雑誌発売日：2017 年 1 月 17 日

2016 年 3 月に CLT 等関連告示が公布されたことにより，CLT に対する意匠設計者・構造設計者・製造メーカーなどの関心がますます高まっている。この特集では，CLT 等関連告示の内容を部位別の仕様，設計法，燃えしろ設計などで概説しながら，実務設計における活用法を解説し，告示の数値的根拠や X 金物も解説する。さらに，今後 CLT の普及を加速させるため，参考モデルとなる事例も紹介する。

3 月号　間違えないための RC 工事の合理化を探る――つくることは考えること

［監修：大塚秀三（ものつくり大学准教授）＋中田善久（日本大学理工学部教授）］

原稿締切日：2017 年 1 月下旬　雑誌発売日：2017 年 2 月 17 日

職人不足，短工期およびコストパフォーマンスを背景に，建設業界は合理化・省力化施工が求められている。この特集では，コンクリート工事に焦点をあて，「コンクリート材料」「コンクリート工法」「型枠工法」「鉄筋工事」「生コン製造」「施工管理・検査・試験」「解体」のすぐに実践できる合理化・省力化技術（工法）を解説する。

4 月号　うっかり間違える鉄骨構造設計の落とし穴 Part2

［監修：宮里直也（日本大学理工学部建築学科准教授）］

原稿締切日：2017 年 2 月下旬　雑誌発売日：2017 年 3 月 17 日

鉄骨造の構造設計においては，計画段階で見落としがあると構造性能や安全性に大きく影響が出ることになる。この特集では，鉄骨造の構造計画時に見落とされがちなこと，例えば接合部の仕様や図面の表記など，実務経験の浅い新人実務者が見落としてしまいがちな項目をピックアップし，見落としのない構造設計を行うためのポイントを解説する。

5 月号　間違いやすい戸建住宅基礎設計のポイント

［監修：藤井 衛（東海大学教授）］

原稿締切日：2017 年 3 月下旬　雑誌発売日：2017 年 4 月 17 日

近年，集中豪雨による地滑り被害や地震による戸建住宅の基礎被害が見られ，宅地地盤や住宅基礎の安全性に対する関心が高まっている。この特集では住宅地盤の安全性の見極め方を解説しながら，地盤訴訟に占める割合が高い，不同沈下，がけ・擁壁，液状化などを取り上げ，基礎設計時で考慮すべきポイントを中心に解説する。

6 月号　広がる BIM の活用法【施工編】

［監修：浦江真人（東洋大学教授）＋曽根巨充（前田建設工業）］

原稿締切日：2017 年 4 月下旬　雑誌発売日：2017 年 5 月 17 日

施工分野で BIM を活用するための基礎知識から建設会社や専門工事業者が具体的に BIM を活用してどのようなメリットを享受できるのかを解説しながら，事例紹介を通して点と点を結ぶ線を生み出す方法を解説する。

※特集テーマならびに監修者および特集の順番は，変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。
※ホームページからもご覧いただけます

月刊「建築技術」2017年　年間企画案

株式会社建築技術　編集部
〒101-0061　東京都千代田区三崎町 3-10-4　千代田ビル 4 階
TEL 03-3222-5951　FAX 03-3222-5957

7 月号　忘れては困る木造軸組住宅の設計・施工の基本

［監修：大橋好光（東京都市大学教授）］

原稿締切日：2017 年 5 月下旬　雑誌発売日：2017 年 6 月 17 日

熊本地震では，木造軸組住宅の被害について注目された。年間約 97 万戸の住宅が建てられ，そのうち半数以上が木造住宅である。木造軸組み住宅の設計において，建築基準法を満たしているだけでは，しっかりした設計とはいえない。しっかりした設計をするために忘れてはいけない基本や配慮すべき注意点，正しい施工をするための忘れてはならない基本について解説する。

8 月号　非構造部材の構造設計を耐震安全性から見直す

［監修：清家 剛（東京大学大学院准教授）］

原稿締切日：2017 年 6 月下旬　雑誌発売日：2017 年 7 月 15 日

熊本地震でも同様に，地震が発生するたびに，内外装材の落下，窓ガラスの破損，照明の落下などの非構造部材の被害が多発し，避難所が使用できない事態が発生した。吊り天井の耐震化は，3.11 で人災事故が起きたので法整備されたが，それ以外の非構造部材の耐震化は取り残され，対策の重要性が浮き彫りとなっている。ここ数年，多発している地震の被害状況を検証し，非構造部材の耐震安全性を考慮した設計，改修の手法や実例を紹介する。また吊り天井の最新事例も紹介する。

9 月号　省エネ法をラクラククリアする建築物省エネ設計法

［監修：澤地孝男（国土交通省国土技術政策総合研究所）］

原稿締切日：2017 年 7 月下旬　雑誌発売日：2017 年 8 月 17 日

建築物の省エネ基準適合義務化が，2020 年に向けて段階的に進められていることを背景に，省エネ設計手法が注目されている。この特集では，非住宅建築物よりも省エネ設計手法が進展している住宅における省エネ設計手法を，非住宅建築物にも転用できる手法を解説する。さらに，設計条件のカテゴリーごとに，省エネ効果の計算結果を示した事例も紹介する。

10 月号　耐震補強のワンポイントレッスン

［監修：勅使川原正臣（名古屋大学大学院教授）］

原稿締切日：2017 年 8 月下旬　雑誌発売日：2017 年 9 月 16 日

国土強靭化計画では，東京をはじめとした大都市における建築物の耐震化率を 2020 年までに 95%に引き上げることとされている。この特集では，木造戸建住宅，民間マンション，幹線道路沿いにある建物，超高層建築物など，建築物の規模や立地条件に合わせた耐震補強方法の最新の知見を，構造設計ならびに施工面から解説する。

11 月号　つくる構造設計とつくらされる構造設計

［監修：腰原幹雄（東京大学生産技術研究所教授）］

原稿締切日：2017 年 9 月下旬　雑誌発売日：2017 年 10 月 17 日

構造解析ソフトのブラックボックス化により，構造設計者の主体性の喪失が，昨今危惧されている。この特集では，構造設計者が主体的に構造デザインを意思決定し，構造解析ソフトに「つくらされる構造設計」ではなく，独創的な構造システムで構築される構造空間をつくりあげる「つくる構造設計」を行うための構造設計者の感性を再び探る。

12 月号　長周期地震動と建築物の安全性

［監修：北村春幸（東京理科大学理工学部教授）］

原稿締切日：2017 年 10 月下旬　雑誌発売日：2017 年 11 月 17 日

2011 年東日本大震災の際，首都圏や大阪湾岸の超高層建築物において大きな揺れが観測された原因は，長周期地震動が原因の一つであると注目されている。また，国土交通省は 2016 年 6 月に「超高層建築物における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動への対策について」を発表している。この特集では，長周期地震動の特性や，超高層建築物などに与える影響を知り，その対策として，どのように安全性を確保すればよいかを解説する。

※特集テーマならびに監修者および特集の順番は，変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。
※ホームページからもご覧いただけます